

元国土交通省熊本河川
国道事務所長



森田 康夫

現在、私たちが享受する安全で快適な生活は、先人が森林や田畠、鉄道や道路を整備し、川を治め、水資源を開発するなど、絶え間なく國土に働きかけてきた歴史のたまものです。

(こ)熊本でも、「後の世のため」を口癖とした加藤清正公ら多くの先人たちのおかげで、安全・安心で豊かに暮らせる社会の実現が可能となっています。街道路や港等の交通インフラ、堰や堤防等の防災インフラ、井手（用水路）やため池等の農業インフラなど、蓄積された郷土への働きかけの成果は、数えれば切りがありません。

一方、度重なる災害にも見舞われてきましたが、熊本地震で

エール！



寸断された県道熊本高森線俵山ルート、JR豊肥線、国道57号の北側復旧道路および現道、国道325号新阿蘇大橋など主要な交通ルートの復旧は、そのたびに、傷ついた阿蘇地域の人々を元気づけました。2020年7月豪雨で被災した国道219号と球磨川をまたぐ橋梁群、そしてJR肥薩線とくま川鉄道湯前線の再建も、人吉球磨地域の復興に大きなインパクトを与えるに違いありません。

第二の故郷と呼ぶべき私の愛する熊本県が、インフラ整備によってますます発展することを願つてやみません。厳しい日々が続いた熊本地震の災害対応を含め、熊本河川国道事務所長としての2年半の月日は、私の人生に大きな意味を持たせてくれました。これが私の「天職」なのだと思います。皆さん、ありがとうございました。

※筆者は現在、NHK連続テレビ小説「エール」ゆかりの愛知県豊橋市で副市長を務める。